

会員だより

アートと食と

自然を楽しむ旅

直島編

12月の何かと慌ただしい時候に長女・次女が帰省出来るというので、ドライブ旅行することになった。

行きたい所は主に香川県アートの島・直島と高松郊外のイサム・ノグチ庭園美術館である。ルートは山陽自動車道岡山から宇部港、フェリーに乗って直島泊。翌日はフェリーで四国本土



直島シンボルのかぼちゃが私達を迎えてくれる

こなして運転してくれるので、私達夫婦は後部席におとなしく座って、何もかもお任せの大名旅行である。宇部港からフェリーで20分で直島に着くとアートの島のシンボルの草間彌生さんの大きなかぼちゃが私達を迎えてくれる。



「直島パヴィリオン」ステンレス網のアート

形も色彩もドット模様も斬新的で、安定感あり、くり抜き窓があり、大人にも子どもにも遊び心を抱かせる造形だ。直島はもっと小さい島と思っていたけれど、小豆島の1〜3位だろう。昔は精錬企業と製塩業



家プロジェクト第1号「角屋」の重厚な屋根

と漁港でにぎわった風情が残っているが、現在はベネッセが開発した芸術の島と生まれ変わった。島の自然を生かし、アートを融合させ、屋外アート作品や美術館、街中の古民家や寺・神社を家プロジェクトと題し、アート作品の表現場所に変えた。閑村になりがちな風土に活気を与えた感覚を起こさせるのは通信教育から始まった企画性にあるのだろうか。我が家の孫も「しまじろう」育ちである。瀬戸内海の新鮮な魚介料理にも満足した。

あれこれと紹介したいが、その一つ、直島の旧商店街の中にある銭湯である。家プロジェクト・アーティストの一人が、入浴しながらアートを味わえる銭湯を十年前に造りました。

昔の遊び

友達4・5人とお茶をしていた時、子供時代の遊びの話になりました。一人が「一番初めは一之宮」ってあったね。と言うとみんな「あった。あった」「二で日光東照宮、三で讃岐の金毘羅さん」と歌いだし、三に続いて「四は信濃の善光寺、五つ出雲の大社（おおやしる）六つ村々地藏さん、七つ成田の不動さん、八つ八幡の八幡宮、九つ高野の弘法寺、十で所の氏神さん。これほど信心したけれど、浪さんの病気は治らない、武夫が戦に行くときに浪子は白いハンカチを、フリフリながらもねえあなた、早くかえって頂戴ね。ごうごうごうごう鳴る汽車は武夫と浪子の別れ汽車」と言うのです。それから「西郷隆盛娘です」と言うのもあった。と言うことから「一かけ、二かけ、三かけて」や、お祭りのときの「覗きからくり」やら、「せっせっせ」のときの歌など次々に出てきました。それがみんな出生地は違うのに同じ歌を知っているのです。パソコンもスマホも



電話もない時代です。子供たちの口から口へ歌い継がれて全国へ広まったのでしょう。後でインターネットで検索すると出るわ出るわ、「一かけ、二かけ」などは、集めた人の編集では、全国に28編も少しずつ歌詞は違って歌われていたような報告が集まっています。果たして今の子供たちはこんな歌を知っているのでしょうか。規輪の会の皆さんはどうでしょうか。知りたくなりました。



私たちは話の続きで、「あやとり」（私たちは「いととり」と言っていました）のことが出て、次には「ひも」を持ち寄って「箒」や「梯子」に挑戦しようということになっています。

記：牧戸富美子

観賞料金650円として、脱衣室、トイレ、浴槽、壁など特別に焼いた陶器作品の中で入浴できるのです。男性と女性の仕切りの上の空間には2mくらいの象が乗っていて、鑑賞者



アートを鑑賞しながら入浴

「いつも続く楽しみ」など色々あります。記・写真・大岡津奈子

もともと地中海沿岸部の土地で自生しており、種を食用にしていたことから徐々に栽培されるようになりまし。秋に種をまき、春に収穫するため、冬から春にかけて白や薄紅色の花を咲かせてから実をつけるようになります。花言葉にも「約束」。



四季彩

エンドウ

3月ともなると秋に種をまいたエンドウの花が一斉に咲き始めます。やわらかい食感の絹さやエンドウ、甘みの強いスナツプエンドウ、中の実を食べる実エンドウなど、いろいろな味わいを楽しめるところも魅力です。

記・写真・上村サト子